



キンギョモのような水中にある水草は、花が咲くの

たいていの水草が、花をつける

体全体が水中にある水草の仲間には、キンギョモ（フサモ）、クロモ、セキショウモ、カナダモなどがあります。これらは、みんな、花をつけ、たいてい、花だけ水の上に出します。

花が咲くのは、おしべの花粉をめしべに運んでもらって、種を作るためです。水草の花粉を運ぶのは、虫や、風や、水の流れなどです。そのため、花を水の上に出すのでしょ

さまざまな花粉のわたし方

クロモは、お花がつく株と、め花がつく株があり、8～10月ごろ、水面に出たお花は、風におされて、水面に出ているめ花にくっつき、花粉をわたします。

キンギョモは、水上にのびたくきの先に、上の方にお花、下の方には、め花がつきます。

セキショウモは、クロモと同じように、め花とお花が、別の株につき、め花だけが水面に出て咲きます。オスの株の根もと近くに、お花を包んだふくろができて、め花が咲くころ、ふくろがはじけ、お花が水面にうき、花粉が水面を流されていきます。花粉を受け取っため花は、花のえを、ぜんまいのように巻きこんで、水中にもぐり、種を作ります。

コカナダモは、お花の株だけ日本に入ってきたため、め花はありません。原産地の北アメリカでは、お花が切れて水面を流れ、め花に花粉をわたします。（監修・矢野 亮）

